

ようじえんだより 2018年度2月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

2月主題『いっしょに』

主題聖句：喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい

ローマの信徒への手紙12章15節

☆ 0～2歳児：寒さの中にも神さまが春を備えていてくださることを知る。いろいろな活動を通して、友だちや保育者と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。全身を動かしたり、手や指を十分に使って遊ぶ。

☆ 3～5歳児：神さまがくださった互いの賜物に気づき、より深い親しみと喜びを感じる。友だちと思いを伝え合う中で、違いを受け入れたり、折り合いをつけたりしながら協力する体験を重ねる。友だちの喜びや悲しみに寄り添うようになる。

小雪は単純に喜べない

今シーズンは、今のところは、小雪であると言われます。確かに今年は除雪が楽に感じます。十日町市の過去20年間の累計降雪量を調べたことがあったのですが、年によって降雪量は全然違うことを改めて知らされました。観光業に従事しておられる方や除雪業者の方は、小雪のシーズンは経済的に厳しくなることでしょう。実際、「小雪の年は十日町市全体の経済が停滞する」と聞いたことがあります。「降られ過ぎても困るけど、降らないのもまた困る」というのが雪国在住の方の本音であることを知りました。

雪は絆をくれる

雪国暮らし3年目の新米の私にとって、除雪作業はきつい作業であり、またもめ事の種になることを思いますが、良い面もみつけました。何より感じるのは「雪は平等に降る」という恵みです。雪は金持ちにも貧乏人にも、障がい者にも健常者にも平等に降るのです。業者の方に除雪を頼むこともできるかもしれませんが、細かなところは自分でなければ

なりません。そして高齢者や障がい者の安否を訪ね合う姿も見られます。田舎であるがゆえの地域共同体があり、何より雪の大変さをみんなが知っているからこそその支え合いがあるのです。私にはそれは尊い絆に思えます。

共同体感覚を身につける

先月号でアドラー心理学にふれましたが、アドラーの大切な思想に「共同体感覚」があります。教育とは自立を目指すことであり、自立した個人が自己のことばかりに執着するのではなく、自分の周囲に喜んで奉仕する姿勢が「共同体感覚」です。そして共同体感覚は「競争」からは生まれません、自分の弱さを自覚し、その弱さを受け入れ、周りからの助けを得る中で「共同体感覚」は身に着くのだそうです。競争によって文明が発達する面はあるでしょうが、競争に勝ち続けられる人はいません。むしろ自分は弱くとも、自分は守られている。だから周りの人を守り、大切にしたいと思えるほうが幸せに近い気がします。

園長：久保田愛策

年間主題『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

主題聖句：愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

新約聖書 ヨハネの手紙I 4章11節